

私は思い出す

子供が、甲状腺ガンの手術を受けた

会議で、リンパ節に転移した子供もいる、と言われた

会議で、肺に転移した子供もいる、と言われた

会議で、甲状腺がんが数十倍多い、と言われた

会議で、それは過剰診療のせいだ、と言われた

会議で、いや、過剰でなく適切な手術だ、と言われた

会議で、それでも遠隔転移した子供を早期発見、

早期治療できたことはメリット、と言われた

子供は、数十倍多い甲状腺ガンになり、手術を受けた

私は思い出す

私は思い出す

誰かが、やっぱり、自業自得だ、と言った

誰かが、やっぱり、どうして逃げなかったの？と言った

誰かが、やっぱり、可哀想だけど、自分の子じゃなくてよかった、と言った

誰かが、だから？いちいち騒ぐな、と言った

誰かが、だから？車に轢かれる子もたくさんいる、と言った

誰かが、だから？命に別状はないから心配するな、と言った

誰もが、やっぱり、だから？と言った

私は思い出す

私は思い出す

子供は、手術を受け、死なずに生きている

子供はただ、癌になって、手術して、

やっぱり、でもなく、だから？でもなく、

ただ私やあなたと同じ今日を、

生きるために、

生きている

私は思い出す

私は思い出す

放射線の影響は、実はニコニコ笑っている人にはきませ
ん、と講演で言った人が、

別の会議で、国際的には最大の実験場という見方が
ある、と言ったそうだ

私は思い出す

私は思い出す

子供を守れなかった、と思う親がいる

私のせいだ、と思う親がいる

あの時逃げていれば、あの時違う食べ物を与えていれば、と思う親がいる

いや、私のせいじゃない、国のせいだ、と思う親がいる

逃げられなかった、仕方なかった、と思う親がいる

誰のせいでもない、国が悪いんでもない、と思う親がいる

でも、やはり、私のせいだ、と思う親がいる

私は思い出す

私は思い出す

子供が何かを考えている

どうして自分が甲状腺がんになったのか、考えているのかもしれない

どうして手術したのか、考えているのかもしれない

誰のせいなのか、大人のせいなのか、考えているのかもしれない

自分が悪いのか、誰も悪くなかったのか、考えているのかもしれない

これからどう生きるのか、考えているのかもしれない

幸福について、考えているのかもしれない

何も考えたくない、考えているのかもしれない

子供は何かを考えていて、その声は聴こえない

私は思い出す

私は思い出す

誰もが自分に一生懸命だろう

お金を儲けるのに必死だろう

恋が実って結婚したいんだろう

ただ笑うことで、何かを忘れたいんだろう

私がそうであるように

未来を殺す痛みを、知っている子供がいる

感情を殺す痛みを、知っている子供がいる

漠然とだけれど、平凡な未来を夢見ていた

たくさんの感情が自然と沸き上がった

それを殺したとき、目に見える血はなく、

ただ痛みだけが、体中を駆け巡った

私は思い出す

私は思い出す

名前を持たない大勢の一人として、

日々を受け入れ、

誰かと同じように笑い、

夜が来ればただ眠るだけの日々があったことを、

今も、子供が甲状腺ガンになっていることを、

私は思い出す